

# 避難・救助・救援に資するルート（命の道）の確保

自治体名

和歌山県

人口（R6. 10.1現在）

879,617人

## 取組のキーワード

■ 住民の意見を反映した計画

■ 道路の強靱化

■ 南海トラフ対策

地域計画の履歴

平成27年9月 作成  
令和2年3月 改定

取組のカテゴリ

想定災害 津波災害

取組主体 行政職員

地域住民

施策分野 住宅・都市

交通・物流

リスクコミュニケーション

## 取組の概要・ポイント

### 取組を実施するきっかけとなった背景や課題

- ✓ 和歌山県は南海トラフ地震により、甚大な被害が想定されている。
- ✓ 災害時における避難・救助や物資供給等の応急活動に必要な広域的な道路ネットワークの構築が課題である。

### 取組の内容

- ✓ 南海トラフ地震への備えとして、高速道路から津波浸水想定区域を避けて沿岸部の集落へアクセスできる道路や、想定津波高より高い位置を通る道路を計画した。
- ✓ 道路の計画に当たっては、住民の意見を反映し、津波襲来時に迅速に避難するための避難路を整備することで、地域の防災上の課題解消を図った。

### 取組と地域計画の関係

- ✓ 国土強靱化地域計画において、津波避難困難地域解消のための避難路等の整備や、災害時の救助や物資供給に必要な広域道路ネットワークの整備、及び代替性確保のための道路ネットワーク整備を行うこととしている。

### 今後の展開予定

- ✓ 南海トラフ地震等の大規模災害に備えるため、代替性を有する道路網の整備や緊急輸送道路の防災・減災対策等、災害に強い道路ネットワークの構築を進める。

## 1 取組を実施するきっかけとなった背景や課題

- 南海トラフ地震に伴う津波により、高速道路未開通区間である「すさみ～太地」間の国道42号の約8割が浸水し、通行不能になると予測されている。
- 国道42号を補完する幹線道路についても、橋梁の損傷・法面崩壊等により通行不能となる恐れがあり、南海トラフ地震をはじめとする大規模災害に備えるため、災害に強い道路ネットワークの構築が必要である。
- 和歌山県中南部の沿岸部には津波避難困難地域が存在し、地域住民の避難路・避難場所の確保が課題である。

## 2 取組の内容

- 周辺の津波浸水想定区域等を鑑み、道路を設計。（主な効果：①・②）

①災害時に緊急物資等の輸送が可能

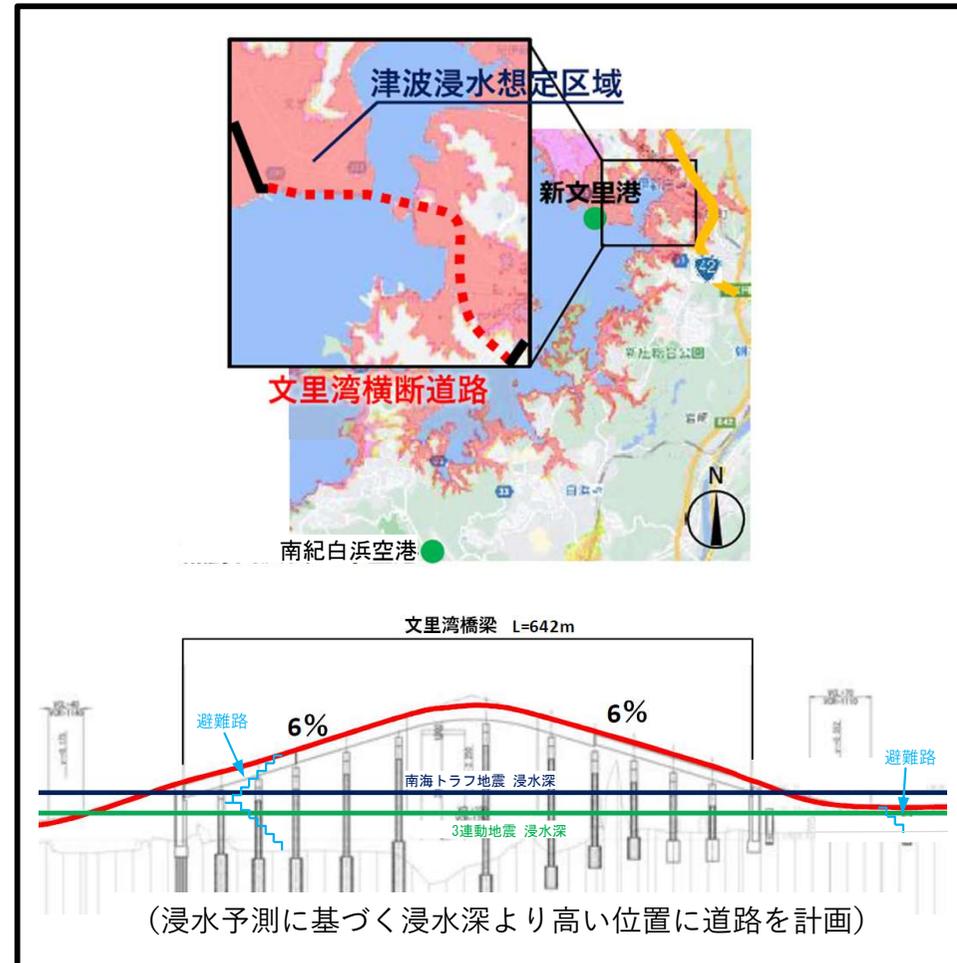
②平面的または縦断的に津波浸水想定区域外に計画することで、津波浸水リスクを回避し、津波災害発生時における津波浸水区域からの避難場所としても利用可能（住民の意見を反映し、津波襲来時に迅速に避難するための避難路を設置）

- 以下に、「都市計画道路 文里湾横断道路」及び「都市計画道路 下里太地線」の事例を示す。

### <都市計画道路 文里湾横断道路>

- 南海トラフ地震の想定津波高より高い位置に橋梁を整備することで、津波避難困難地域の住民に加え、周辺の要配慮施設利用者の一時避難場所として機能する。あわせて、住民の意見を反映し、津波から迅速に避難するための避難路を計画した。さらに、大規模災害時には広域防災拠点である南紀白浜空港からの救援活動や物資輸送等にも活用できる。

都市計画道路文里湾横断道路



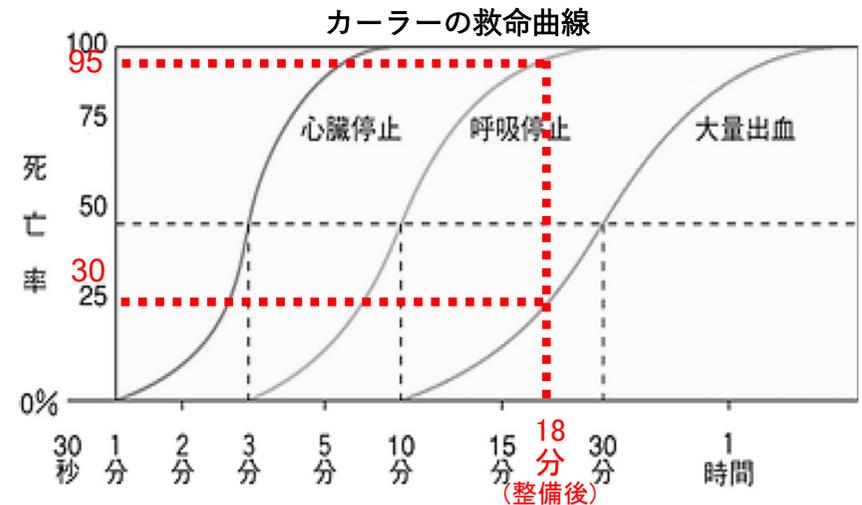
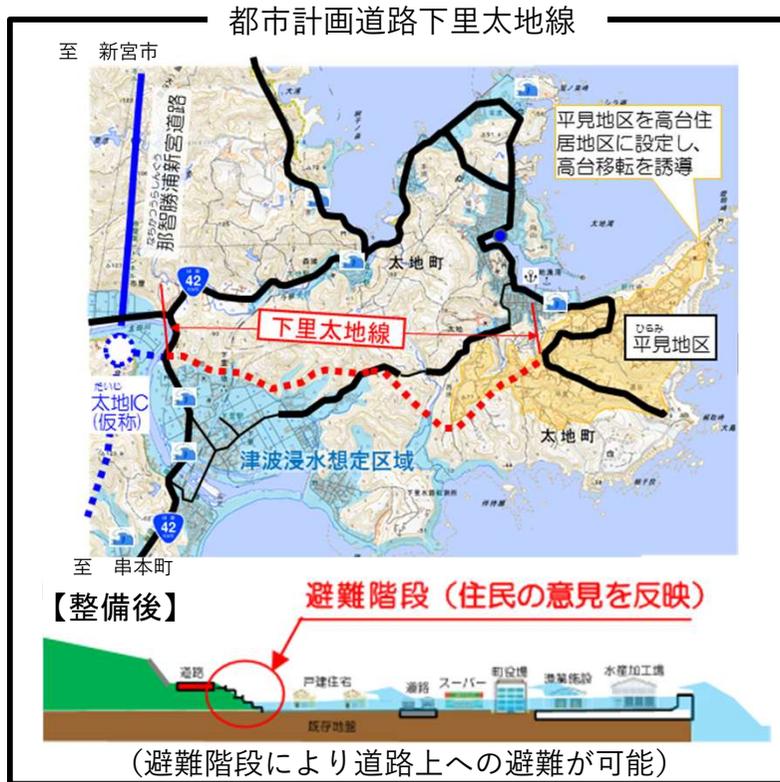
## 2 取組の内容（続き）

<都市計画道路 下里太地線>

- 当地域周辺の国道42号が南海トラフ地震の津波浸水想定区域内を通るため、高速道路から浸水想定区域を通ることなく太地町平見地区まで繋がることで、災害時において救助・救援活動や緊急物資の輸送が可能となるよう、津波浸水想定区域外に道路を計画した。津波警報が解除されるまで（地震発生から約30時間後を想定）津波浸水想定区域内への立ち入りができないが、本道路の整備により、太地町から新宮市立医療センターが60分圏域※に入るとともに、新宮市方面から太地町への早期道路啓開が可能となる。また、津波浸水想定区域内の住民等が迅速に避難するための避難路の設置により、津波災害時の一時避難場所としても機能し、避難・救助や応急活動を支える「命の道」となる。

※60分圏域について（ゴールデンアワー）

外傷による死亡の疫学調査の結果、受傷から1時間以内に手術室に搬入していれば救命できた可能性のある例がかなりの割合に上ることが分かったことから、受傷から1時間以内をゴールデンアワーと通称したもの。



### 3 取組と地域計画の関係

#### 【地域計画における記載】

- 令和2年3月に改定された国土強靱化地域計画において、「発災直後の救助体制と早期復旧体制の確保」の取組の一環として「救助・救援に資するルート確保」を位置付けており、具体的な取組として、災害時の救助や物資供給に必要な広域道路ネットワークの整備や代替性確保のための道路ネットワーク整備を行うこととしている。
- また、津波避難困難地域の解消のため、避難路等の整備を位置付けている。

### 4 今後の展開予定

- 南海トラフ地震等の大規模災害に備えるため、代替性を有する道路網の整備や緊急輸送道路の防災・減災対策等、災害に強い道路ネットワークの構築を進める。併せて、住民の意見を取り入れ、より避難や防災に生かせる改良を加える。

#### 参考 周囲の声（庁内職員・住民・企業）

- 文里湾横断道路について、隣接する町（白浜方面）へのアクセス性の向上や慢性的な渋滞緩和だけにとどまらず、南海トラフ地震の災害時の緊急避難路や一時避難場所としての活用も考えられる。（住民）
- 下里太地線について、津波襲来時に迅速に避難出来るよう、計画道路へ避難路や取付道路をはじめ、一時避難場所としてレベルバンクを整備してくれるのはありがたい。（住民）